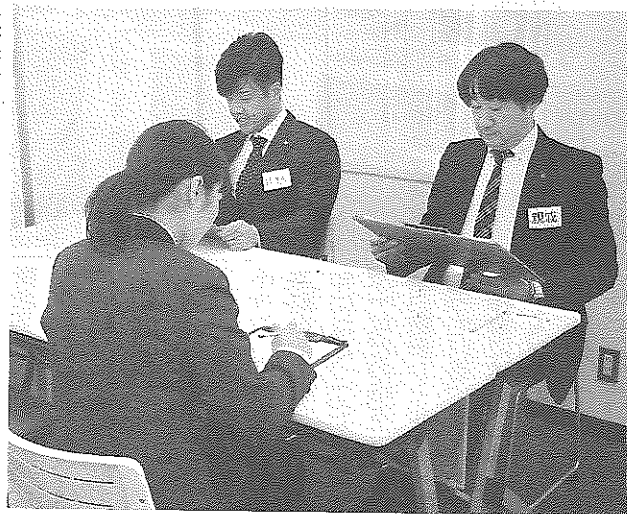


葬儀の事前相談員 資格認定講習再開

全日本葬祭業協同組合連合会（全葬連）は加盟店の従業員育成を目指し、このほど4年ぶりに事前相談員の資格認定講習会を再開した。昨今の「終活ブーム」を背景に事前相談員の需要が高まっており、加盟店の従業員の能力向上を目指す。講習会は2012年に始まり、5年間で約1100人が受講、千人ほどが資格を取得した。2日間の講習会で受講者は座学と実技の講義を受ける。今回は接客やマナー



の研修だけでなく、相談者への気遣いができ、相談に関する知識も身に付けた相談員の養成を目的とした。講習を終えると、筆記

在加盟店が施行する葬儀の約8割が事前相談に基づいている。一方で、相談者の疑問や不安に十分に対応することは難しく、加盟各社から講習会の再開を求める声が大きかったという。

事前相談は葬儀のトラブルを減らし、施主の満足度を高めるメリットがある。全葬連の松本真輝専務理事は「葬儀社の対応が良いと、僧侶の方へのイメージも向上しやすくなる。お寺の方々にも

と実技の試験が行われる。試験日の11月19日、都内の会場に集まった約50人の受講者は緊張した面持ちで、店舗での相談を再現した実技試験に臨んだ。写真。

生前に葬儀費用の見積もりや手続きを行う事前相談の需要は年々上昇し、全葬連によると、現

そのような葬儀社を使っていたら、共に用いできた」と話してい